

日本看護歴史学会 會報

日本看護
歴史学会
第80号
2023年7月15日

日本看護歴史学会第37回学術集会のご案内

日本の近代化と看護 ～看護は何を未来に繋ぐのか～

日 時：2023（令和5）年8月11日（金）・12日（土）
会 場：国際医療福祉大学小田原保健医療学部 本校舎
学術集会長：鈴木 紀子（国際医療福祉大学小田原保健医療学部）



鈴木紀子学術集會会長

国際看護師協会（ICN）の倫理綱領の前文には、看護には、文化的権利、生存と選択の権利、尊厳を保つ権利、そして敬意のこもった対応を受ける権利などの人権を尊重すること

が、その本質として備わっていること、看護ケアは、年齢、皮膚の色、信条、文化、障害や疾病、ジェンダー、性的指向、国籍、政治、人種、社会的地位を尊重するものであり、これらを理由に制約されるものではない、ということが書かれています。

今、世界では温暖化による自然災害、人口爆発、貧困、紛争、難民問題などなど、グローバルな問題が存在しており、看護職である私たちは、改めて看護職の基本的責務について考え、実行する行動力も求められていると思います。有名な言葉に「歴史は現在と過去のあいだの対話である」（『歴史とは何か』E.H.カー著、近藤和彦訳）がありますが、起こっている現象には、必ず歴史があり、その歴史を知らなければ未来が見えません。

そこで第37回学術集会では、「日本の近代化と看護 ～看護は何を未来に繋ぐのか～」というテーマのもと、私たちが歴史を見る視点、歴史から何を学ぶのか、そして人々の命を守る専門職である看護職として、何を未来に繋ぐのかを考える機会になることを目指します。

2023年5月8日、新型コロナウイルスは「5

類感染症」になり、個人の選択を尊重し、国民個々の自主的な取組をベースとした対応に変わりました。そのため、今後新型コロナはどのような様相を呈するのか不安は残りますが、第37回学術集会は現地開催とし、日本看護歴史学会の本来の目的である、会員の皆様の人的・知的交流を図りたいと思います。特に知的交流では、今回会員有志の方々より、多くの研究の別刷りをご提供いただきました。会場に足を運んでいただいた会員の皆様に、今後の研究活動に活用、役立てていただけるようなコーナーも企画しております。

小田原は歴史のある地域で、歴史に関心のある方が多い地域です。そこで、本学術集会では、小田原市の後援のもと、1日目午前中は市民公開講座といたしました。市民の方々にも学会の存在意義、活動を知っていただく機会になると思います。また、特別企画展として、白衣の歴史展（協賛ナガイレーベン）も開催します。看護の歴史をユニホームから知ることもできますので、未来、看護職を目指す人たちにも足を運んでいただき、看護に興味・関心を持っていただくきっかけになる企画も準備中です。

会場のある神奈川県小田原市は小田原城をシンボルとし、また温泉地として海外からの観光客に賑わいを戻しております。暑い盛りの学術集会開催ではありますが、会場では、書籍販売、精神看護学の実習施設の協力のもと、パンの販売や商品の紹介も致します。是非小田原観光、足を伸ばしての熱海、箱根観光も計画し、観光がてら学術集会にもご参加ください。多くの会員のかたの参加をお待ちしております。

日本看護歴史学会第37回学術集会プログラム

〈8月11日（金） 1日目〉9：00～受付

会長講演 日本の近代化のはじまりと看護の発展

演者：鈴木 紀子（国際医療福祉大学小田原保険医療学部）

座長：屋宜 譜美子（天理大学副学長）

教育講演Ⅰ 箱根病院の軌跡－医療・看護の発展に繋がる道

演者：小森 哲夫（国際医療福祉大学小田原保健医療学部 学部長、箱根病院名誉院長）

座長：田中 幸子（東京慈恵会医科大学）

教育講演Ⅱ 歴史に向き合う－記憶と記録の意味を問う

演者：黒沢 文貴（東京女子大学名誉教授）

座長：川原 由佳里（日本赤十字看護大学）

教育講演Ⅲ 兵士たちの心の中の戦争

演者：中村 江里（広島大学大学院人間社会科学研究科 准教授）

座長：鷹野 朋美（日本赤十字看護大学）

教育講演Ⅳ 看護教育教材・方法の変遷

演者：岡本 華枝（京都光華女子大学健康科学部 看護学科 准教授）

座長：春日 広美（千葉県立保健医療大学 健康科学部）

一般演題（口演・示説発表）

理事会セッションⅠ（戦争と看護シリーズ）

戦争は過去のものではない

1) 看護と戦争：歴史研究にできること

演者：川原 由佳里（日本赤十字看護大学）

2) “いのちを阻むものは全て悪”－じょっぱり看護の人花田ミキの映画（予告編）をみながら－

演者：鎌倉 幸子（映画プロデューサー）

司会：川嶋 みどり（日本赤十字看護大学）、佐々木 秀美（広島文化学園大学）

理事会セッションⅡ（特別委員会）・理事会セッションⅢ（研究推進委員会）合同企画

時間泥棒と持続する志、あるいは、タイパとサステナビリティ

－1冊の本『ツベルクリン騒動－明治日本の医と情報－』が誕生するまで－

演者：月澤 美代子（元順天堂大学大学院医学研究科准教授）

司会：丸山 マサ美（九州大学大学院）、城丸 瑞恵（札幌医科大学）

〈8月12日（土） 2日目〉

一般演題（口演）

シンポジウム 看護の技を未来に繋げる－コロナ禍で臨地実習ができない中、看護技術をどのように学ばせるか－

シンポジスト：川嶋 みどり（日本赤十字看護大学）

中川 真帆（聖路加国際病院看護部）

曾田 陽子先生（愛知県立大学看護学部・大学院看護学研究科 准教授）

参加登録のご案内

■参加登録及び事前申込期間：2023年3月1日（水）～7月22日（土）迄
それ以降は当日受付となります。

参加費	会員	非会員	大学院生	学生
事前申込	8,000円	9,000円	—	—
当日受付	9,000円	10,000円	2,000円	500円

参加登録と参加費支払いは、学術集会のホームページの所定の様式から申込みをして下さい。

申し込まれた方には、領収書がメールで配信されます。参加証は当日受付でお渡しします。

*学生・大学院生は当日学生証をご提示の上、受付にてお申込みと参加費のお支払いをお願いします。

*講演集について 事前参加登録された方には、学術集会前（7月下旬頃）に郵送予定です。

第37回日本看護歴史学会学術集会事務局：国際医療福祉大学小田原キャンパス内

<https://www.jsnh37.com/home>



問い合わせ先・アクセス

会場住所：〒250-8588

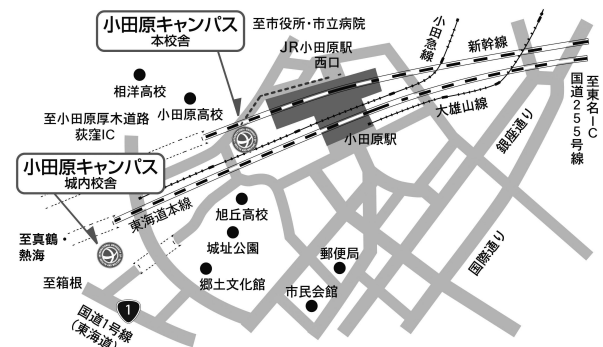
神奈川県小田原市城山1-2-25

国際医療福祉大学

小田原保健医療学部本校舎

Tel：0465-21-6736 富澤研究室

Email：37kanreki@gmail.com



理事会セッションⅠ（戦争と看護シリーズ）

戦争は過去のものではない

演者：川原由佳里（日本赤十字看護大学）

演者：鎌倉 幸子（映画プロデューサー）

司会：川嶋みどり（日本赤十字看護大学）

佐々木秀美（広島文化学園大学）

「戦争が廊下の奥に立っていた」（渡辺白泉 1913-1969）は、戦争の悲惨さが多くの国民にとっては未だ対岸の火事であった頃の俳句だが、戦争は気付かぬうちにひたひたと忍び寄ってくるとの警戒感が伝わる。理事会セッションⅠで「戦争と看護」を取り上げようと決めたのは京都大会（2013年）からで今年は11回目となるが、あらゆる面で人間の尊厳を奪い尽くす戦争の不条理さを、史実を通して正しく認識する上で貴重なセッションが続いてきた。

だが、今年は、少々様相を異にする。国会の場で飛び交う軍事用語のすさまじさは、70数年前に

世界に向かって誓った非戦平和の国とは到底思えず、前述の句と共通の「新たな戦前」の空気感が漂っている。

そこで、今年は「戦争は過去のものではない」のテーマのもとで

1. 川原 由佳里：看護と戦争：歴史研究にできること
2. 鎌倉 幸子：“いのちを阻むものは全て悪”
ーじょっぱり看護の人花田ミキの映画(予告編)を見ながら

乞うご期待！多数のご参加を願います。

理事会セッションⅡ（特別委員会）・理事会セッションⅢ（研究推進委員会）合同企画

時間泥棒と持続する志、あるいは、タイパとサステナビリティ

ー 1冊の本『ツベルクリン騒動ー明治日本の医と情報ー』が誕生するまでー

演者：月澤美代子（元順天堂大学大学院医学研究科准教授）

司会：丸山マサ美（九州大学大学院）

城丸 瑞恵（札幌医科大学）

誰でも1日24時間、1年365日。人生最も長く生きられても125年くらい。さて、この時間をどう使うか。自分自身で日々の糧をひろい、棲み場所も確保しつつ、「時間泥棒」に時間を盗まれないように気を配り、いかに、自分自身の中の「持続する志」を維持しつづけ爪痕を遺していけるか。これが、私の人生の最大のテーマ。

その小さな爪痕としての1冊の本が、『ツベル

クリン騒動ー明治日本の医と情報』として2022年11月に名古屋大学出版会から刊行されました。ロベルト・コッホの開発した結核新治療薬「ツベルクリン」をめぐる「情報」の流れと人々の動きを語りつつ、明治20年代という日本の、そして世界の医療の大きな転換点を浮かび上がらせようという壮大なテーマである。さあ、その誕生までの道のりと、そこに籠めた著者の思いを語りましょう。

日本看護歴史学会総会のお知らせ

令和5年8月11日（金）17時～

国際医療福祉大学小田原キャンパス本校舎 B502・503会議室

*返信用はがきに必要事項を記入の上、7月31日（月）までにご返送くださいますようお願い致します。

第13期理事・監事選挙結果

理事：川嶋みどり、田中 幸子、黒田 裕子、岡山 寧子、滝内 隆子、矢野 正子、
嘉手刈英子、屋宜譜美子、春日 広美、小川 典子

監事：丸山マサ美、川原由佳里（敬称略・順不同） ※学会選挙規約11条

本の紹介

- 『ツベルクリン騒動』月澤美代子著、名古屋大学出版会
- 『想像する身体—下巻 身体の未来へ』安井眞奈美／ローレンス・マルソー編、臨川書店
- 『日本看護歴史学会35周年記念誌（チラシ参照）』

■編集委員会からのお知らせ

学会誌投稿論文は6月1日～30日の期間内に編集委員会宛送付して下さい。

論文投稿時にはご注意ください。

本年度、理事・監事が変更となりますので、令和6年度より投稿論文の送り先も変更される予定です。

新たな編集委員会の住所はホームページ、次号の会報にてお知らせいたしますので、送付の際にはお間違えのないようにご注意ください。



*（ ）内は会員番号 2022年12月～2023年5月中旬入会

村上 亜紀 (22023) 白田ゆきの (23001)

後藤 雪絵 (23002)



■事務局から

会員動向

(2022年12月～2023年5月中旬現在)

1. 会員数 276名
2. 入会者 3名
3. 退会者 22名（うち資格喪失者11名）

学会年会費：会計年度 毎年4月1日～3月31日

令和5年度会費(6,000円)をまだ納入されていない会員の方はすみやかに納入をお願いいたします。

2年間会費滞納の場合、退会となり会員資格を失いますのでご注意ください。

新規・再入会手続きは本会ホームページ「入会案内」をご参照ください。

編集後記

G7サミットが終わりました。核抑止力がうたわれました。しかし、持っていれば使いたくなるもの。核の脅しではなく、平和外交こそが先ずは重要。

久しぶりの対面での学会で、皆様のお顔を拝見できますように。
(黒)

日本看護歴史学会会報 第80号

企画・編集 川原由佳里（日本赤十字看護大学）
黒田 裕子（太成学院大学）

発行責任者 丸山マサ美（事務局）

印刷 有限会社 新和印刷

事務局 〒812-8582
福岡市東区馬出 3-1-1
九州大学大学院医学研究院
保健学部門内
事務局 丸山マサ美
TEL & FAX 092-642-6710（直通）
E-mail office@jsnh.jp

学会 HP <http://plaza.umin.ac.jp/~jahsn/>